

家庭血圧測定に関心を持ち良好な測定アドヒアランスを示す一般高齢者の特徴

窪菌 琢郎

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学

【背景】 家庭血圧測定は有用であるが、測定が不十分な症例も存在する。

【目的】 家庭血圧測定への関心と測定アドヒアランスに関連する一般高齢者の特徴を明らかにすること

【方法】 2019年に垂水市における地域コホート研究に参加した687人の高齢者を対象とした。家庭血圧測定の重要性を説明した後、希望者に家庭血圧の貸し出しを行った。うつ症状、軽度認知障害 (MCI) 及び新機器利用や情報収集、生活マネジメント、社会参加といった日常生活機能に関するアンケート調査を行った。筋肉量、歩行速度、握力を評価し、サルコペニアやフレイルの判定を行った。

【結果】 308人が家庭用血圧計の貸与に同意し、113人が毎日血圧を測定していた。多変量ロジスティック解析において、高い新機器利用や情報収集能力 (オッズ比1.850, $P=0.0012$; オッズ比1.481, $P=0.0323$)、うつ症状やMCI、サルコペニアの存在及び握力の低下 (オッズ比0.605, $P=0.0112$; オッズ比0.410, $P<0.0001$; オッズ比0.602, $P=0.452$; オッズ比0.557, $P=0.0051$) が、年齢、性別、降圧剤の使用に独立して、家庭用血圧計の貸与と関連していた。毎日の家庭用血圧測定に関連する要因を調査したところ、年齢や性別と独立して、フレイルの存在が毎日の家庭血圧測定と関連していた (オッズ比1.638, $P=0.0472$)。

【結語】 家庭血圧測定に関心のある高齢者及び良好な測定アドヒアランスを示す高齢者の特徴が明らかとなった。本研究は、家庭血圧測定の普及やアドヒアランス向上の一助になる。